

平成18年度 心に響く人生の達人セミナー 講演会 <要約>

学校名 長崎県立奈留高等学校

実施日 平成18年11月22日(水) 13:05~14:45

演題 「人は化ける」

講師 村山 喜久治 氏〔日本経済新聞販売開発(株)専任講師, 元明治生命取締役〕

講演内容

今日は素晴らしい奈留高校におよびいただきありがとうございます。たいへん素晴らしいところで、私は仙台にもいたんですが、仙台よりも五島の方が素晴らしいなあと思いながら船に乗ってきました。今日は、「人は化ける」というタイトルをつけていますが、人は成長するものだ、成長しなければいけないんだという話をします。もっとわかりやすく言うと、学生のときにおとなしい少年少女や、暴走族だった人が、社会に入って全く変わる人がいます。私自身もおとなしくて、はにかみ屋で暗くて人嫌いでものも言わなかった人間でした。それがどう間違ったか、保険会社という数字の世界に飛び込んで、全国を10か所転勤で回りました。北は宮城、南は宮崎、高知、東京など転勤を重ねてきました。そこでの経験なども話したいと思います。

実は、「人は化ける」という話は、もう一人なさっている方がいらっしゃるということを知りました。吉本興業という会社の社長さんです。吉本興業で働く芸人さんの能力や才能は、持って生まれたものだろうと思っている人がおられると思いますが、元々、吉本興業に入る人は、意外とおとなしくて内気ではにかみ屋の人が多いです。つまり、自分の性格と戦って作り上げたものなのです。私も、色々な場所でセールスをしてきましたが、おとなしい性格ではできないのです。知らない場所で、100件訪問の訓練をするのです。このように、格闘しながら今日まで来ました。私は、若い時は暗い性格で、母親から「勉強しなさい」といわれずに、「勉強するな」と言われていました。あんまり勉強するものだから、体を壊すと心配されていました。何か目標があったわけではないが、勉強しかすることがなかったから勉強ばかりしていました。女性と話すことや、スポーツなどの勉強以外の無駄なものをいっさい排除していました。私は、「人生は無駄の中にある」と思っていますが、当時は、無駄なものは全部カットしていました。また、私の若い頃は、挫折ばかりでした。大学2年のときに9ヶ月間入院しました。普通なら留年するところですが、病院の先生に試験は受けていいと言われ、病室にリンゴ箱を置いて勉強しましたので、大学は遅れることはなく卒業できました。この苦しかったときが私の一番の原点なのです。しかし、就職したのは26才で、随分遅れていました。一回体を壊すと、なかなかいい会社に入れな。そういうこともあって、私の青春時代はボロボロでした。しかし、何か大変なことがあっても、自分は元気じゃないか、何をそんなにくよくよしているんだと思うようになりました。物事を前向きにとらえるようにしました。

皆さんにお話ししたいことの一つに、人生には3つの坂があります。簡単に言うと、「上り坂」、「下り坂」、もうひとつが「まさか」です。今の日本人が一番いけないのは、何か大変なことを考える力が弱いと言われていています。今皆さんにとって普通当たり前のことが、当たり前では無いこともあります。今私がこうして皆さんの前で話をするのは、学生時代に

はまさか考えもしませんでした。元々私は、ボキャブラリーが無かった人間でした。何か話そうと思っても言葉がありませんでした。今日はいいい意味でのまさかを展開しているのです。先ほど、病氣したとか言いましたが、病氣したからこそ、今の家族があり、今日の私があるのです。今後もし皆さんにあまりいい形ではないことが起こっても、何で私だけとか、運が悪いとか、残念に思わないでください。美輪明弘さんという人がいますが、この人の考え方は男性的です。男性的とはものの判断が素速くて、すぐに行動に移せる人です。美輪さんがよく言われることに、「正負の理論」というものがあります。プラスの出来事が起こると必ずマイナスのことが、マイナスの出来事が起こるとプラスのことが起こる。人生というのは、良いことがあれば悪いことが起こり、悪いことがあれば良いことが起こる。私の経験からいっても、これはあてはまると思っています。上り坂というのは自分が苦しいなど思っているときで、楽だと思っているときは下り坂なのです。

化けるときに、どういうものが必要となるのか、どうすればいいのかをこれから伝えたいと思います。インフラという、一番のベースになるものを話したいと思います。音楽や絵とかで感性を磨くことを優先させるようになり、言葉が死んでしまっていると思います。メールも言葉や絵文字を羅列すればいい、あれではボキャブラリーが増えません。私は若い頃から新聞や雑誌を切り取って、自分の頭にたたきこんできました。例えば、資料に「四季の心」という文章がありますが、「人に会うときは春のように暖かい心で、仕事をするときは夏のように情熱的な心で、物事を考えるときは秋のように澄んだ心で、自分を戒めるときは冬のように厳しい心で」この四つを頭の中にたたき込んでいると、色々なところで役に立ちます。言葉を馬鹿にしないで欲しいです。日本人は、「あいつは口先だけだ」とか、言葉をすごく馬鹿にしているところがあります。そうではなくて、その言葉を自分の心に入れておけば、必ず役に立ちます。私は、常に手帳を持っていて、人の言ったことなどを、メモをとるようにしています。退院したときも、自分で自分を励ます文章を書いていた。人間の記憶はあいまいなので、何かに残しておいて、頭に残すようにして欲しいです。そして、何かを読むときは、声を出して読むようにした方が頭に残ります。本題に入りますが、まず、化けると言うことですが、徐々には化けません。化けるときは、必ず誰か先生がいます。野球のイチロー選手には仰木監督という先生が、マラソンの高橋尚子選手には小出監督がいました。逆でもいいと思います。私の父親は働けど働けど貧しかったのです。でも一生懸命働いて、その後ろ姿を見ていたので、私も頑張らないといけないなど思っていました。師は、もちろん立派な人に恵まれたら良いですが、立派な人に恵まれなくても、私は「親父とは逆の生き方をする」と思っていました。親父は、「精一杯働いてもこれだけだったら仕方ない」と言っていました。私の母は面白くて、「これからは崖っぷちをつま先立って歩け」と言っていました。右に転ぶか左に転ぶかわからない、そういう緊張感をもって一日一日を暮らせと言っていました。父と母で差があるんですけど、私はどちらかというとも母の言葉を信じて生きてきました。今は元気ですけど、明日どういうことがあるかわからないと思いながら生きてきました。精一杯生きてきたので、学生時代に戻りたいとか思いません。明石家さんまさんの人生訓は「生きてるだけでまるもうけ」です。今日一日を思いっきりやるということです。

今私がちょっとおかしいんじゃないかと思うことがあります。成功している人はみんな夢とか目標とか生き甲斐とかを持っています。例えばプロ野球の松坂選手は10歳のときに大

リーガーになろうという目標をもっていました。しかし、そんな人は10人に1人か2人です。私は20何歳の頃まで何にもありませんでした。強いて言えば、父が汚い格好をして働いてそれでも貧乏だから、自分は勉強して背広姿でサラリーマンになりたい、そのためには勉強して良い会社に入らないといけないかというそれくらいのことしかありませんでした。夢も何もありませんでした。もし皆さんの中に、ちょっと焦っている人、自分に自身を失っている人がいたら、そんな風に思わないでください。まだこれからなんです。むしろ、若いときにポリシーとか持たずに、自分を柔軟にして、人の話を聞いて、これから夢を見つければよいのです。私も劣等感のかたまりですが、人生はその劣等感と戦うことが人生なのです。誰でも、皆さんが思うほど強くはないのです。自分はだらしがない、自分は気が弱い、そんな自分を認めて好きにならないといけません。自分を大事にすると、相手も大事にできるのです。私は子供たちに自分の働く姿を見せてきました。仕事をしながら仕事を楽しんできました。子供たちにもやりたいことをやらせてきました。人生は一回だと思っただけです。自分の思った人生を、私も歩みたいし子供にも歩ませたい。最近、子どものために生きている親が多いと思います。いい親を演じているんじゃないかと思っただけです。皆さんもこれから島を離れると思いますが、日本はどこに行っても同じです。何も怖くありません。人間変な人がいますが、あれは例外中の例外です。人間とはもっと素晴らしい、すごいと思っただけです。もっと人間を大好きになってください。簡単なことみたいですが、ものすごく難しいです。一人一人の違いを認めることが大事なことです。学生の時「あいつは嫌いだが、知らない、関係ない」ということが通用しますが、社会に入ったら人間を好きになると絶対に仕事ができます。日本には六千万～七千万の人が働いていますが、その内の三千万の人が、ものを販売したり営業したりする仕事です。営業や販売の仕事ではコミュニケーションが大事です。コミュニケーションとは、自分が言ったことをわかってもらう、相手が言ったことを理解する、心と心が通い合う、もっと言うと一緒にいるだけで心が落ち着く、何も言わなくても心が通い合う、これがコミュニケーションの最高の形です。しかし、そこにいくまでは話をしないとダメです。逃げてはいけません。自分を愛するように、人を愛さなければならぬのです。自分に欠点があるように、人にも欠点があり、その欠点を認めてあげなければならぬのです。

このようなことから、人が化けるためには、「素直さ」、「変革への意志」、「全員に学ぶ態度」、「逃げずに戦う姿勢」が大事です。世の中には素晴らしい人がたくさんいます。怖がらないでください。やらないで後悔するよりも、やって後悔したい。小さい戦いに勝つよりも、大きな戦いに負けたい。大きな厳しい戦いに立ち向かって負けた方が、身に付きます。また、化ける前にして欲しいことが、小さな巨人になって欲しい。巨人とは優れた人という意味です。小さな優れた人にチャレンジして欲しいです。小さなことでいいので、今日から初めて欲しいです。具体的な言葉と、具体的な行動を伴ってください。何かひとつやるために、今やらないといけないことがあると思っただけです。それが直接夢と結びつかなくてもいいので、何か行動をひとつ始めてください。先ほど、まだ夢が無くてもいいと言っただけですが、早く夢が作れる人は作ってください。ただ、今、夢を持っていないからといって自分は駄目だとは思わないで、逃げないで駄目な自分も自分だと認めてあげてください。あまり自分に劣等感を持たないでください。そういう自分も自分なのです。弱いということは、プラスなのです。自分がある程度のリーダーになったときに、弱い人の気持ちがわかるから、自分を弱いと認めた人は本当は強いのです。自分は醜いと思っただけの人、本当は醜くないの

です。本当に醜い人は、自分の醜さがわからない人です。強がっている人は、本当は弱いのです。だから、弱さというのは欠点ではなく、やさしいということです。

コミュニケーションでは笑顔を作ること、人と壁を作らないこと、人をやさしく受け入れてあげること、人の違いをわかることが大事です。心の広さ、深さが大切なのです。心の広さとは、相手をわかってあげられるということです。人の良いところをひとつ見つけてください。人間には欠点があります。一番いけないのは、ひとつでも悪いことがあると、全部消す人がいます。人間には一つ二つは欠点があります。そこを、心を広く持って認めてあげることです。自分も欠点を持っているのです。もっと大事なのは、何かの縁で一緒になっているので、その縁を大事にしてください。そして人間を大好きになって、それだけでいいのです。それから、何か恥ずかしいという人がいますが、恥ずかしいことを平気でやってのけることが仕事です。そして一つ一つを学んでいくのです。「我以外は皆師なり」という言葉がありますが、自分以外は皆先生だと思ってください。また、若い人は知識が知恵になっていません。そして、妙に社会に不安を持っているようです。それに、ストライクゾーンがすごく狭いです。自己領域、自分の幅が狭いです。自分だけ何かやらされているという被害者意識が非常に強い。こういうことをわかった上で、それを取っ払わないといけません。それから、好き嫌いが激しい、すぐ「関係ない、知らない、やりたくない」と言いますが、これからは、コミュニケーション力を身につけて、色々な人と色々な話ができるようになってください。みなさんも知ってる人同士では自己主張をするでしょうが、知らない人の対応はどうしたらいいか、知らないから不安などがあると思います。しかし、人間は一緒です。自分を素直に出してください。どうしてもいいプライドやこだわりは捨てて、成長するために人から色々なことを学ばないといけません。

人間関係でひとつだけ守ればいいことをお教えします。人間関係を良くするには、「L、F、P」の三つを大事にすればいいのです。「L」はL i s t e n、人の話を良く聞くということです。聞かない人は成長しません。「P」はP r e s e n t、心は言葉と形で表すものです。「F」はF o r g e t、上手に忘れるということです。一つのことにとこだわってはいけません。

この中で夢や目標が「お金持ちになること」という人がいるかもしれません。仮にお金お持ちになったとしても不幸です。たった一度の人生なら、もっと感動のある、もっとときめきのある、もっと豊かな人生を送れる人が小さな巨人だと思います。形の無いものに価値を見出せたら一流です。旅行などで良かったと思うことには、必ず人が出てきます。形の無いものとは、暖かさとか親切さとか思いやりなどです。それが見えてくると、人生が豊かになります。お金だけを目的にすると、いずれ失います。お金持ちになるのは夢や目標ではなく、何かをやるための手段なのです。小さな巨人になるということは、自分の納得のいく人生を送っていくということだと思います。自分の思っていることを、前に進めればよいと思います。これから、逆境もあると思います。しかし、試練に耐えられるから、神はその試練を与えるのです。試練に耐えられない人には、試練は与えられません。また、仏教の世界では、人にやったことは必ず自分にもどってくるということがあります。良いことも悪いことも自分に戻ってきます。

教育の原点とは二つあります。一つは自立心を身につけること、もう一つは相手の立場に

立ってものを考えることです。物事をいつも向こうから考えることができるようになれば、一流の人間です。向こうから考えることができれば、もっと化けることができます。自分の心をやわらかくして、人の話を良く聞いて、人の言ったことは上手に忘れてあげて、人を大好きになって、人生を送って欲しいと思います。そうすると、ますます皆さんは大きな人生が待っているのではないかと思います。私が一番大好きな言葉は「ありがとう」という言葉で、一番嫌いな言葉は「さようなら」ですが、ここを締めくくるに当たってそれを言わなければなりません。皆さんさようなら、また、ご静聴ありがとうございました。